

## 〈 完成報告書検討結果（東洋大学ライフデザイン学部） 〉

### [1] 概評

2007（平成 19）年度の本協会による大学評価に際し、貴大学ライフデザイン学部は、評価資料を提出する 4 月段階において申請資格充足年度（標準修業年限+1 年）を経たおらず、教育・研究活動に関する評価を十全には行えなかった。よって当該学部の完成時の状況を、完成報告書として取りまとめることを求めた。

今回提出された完成報告書からは、同学部は「生活支援」「健康スポーツ」「人間環境デザイン」の 3 学科から成り、QOL（生活の質）の思想を基盤として「21 世紀の生活＝ライフ」のあり方について教育・研究することを目的としていることが認められる。

カリキュラムは学科ごとに「専門科目」と「一般教養的科目」で構成され、後者はさらに「人間探求分野」（12 単位選択必修）「文化間コミュニケーション分野」（4 単位選択必修）「スポーツ健康分野」「留学支援科目」に区分されている。「専門科目」は、生活支援学科や健康スポーツ学科では資格取得を重視した構成になっている。

学生に修得させるべき能力として 6 項目が掲げられているが、「①問題解決のための目標と解決までの作業プロセスを的確に企画し開示できる能力」は、どの科目によって担保されるのか明らかでない。同様に「⑥母国語以外の国際的言語によるコミュニケーション能力」が求められているが、外国語教育を重視したカリキュラムには見えないため、同項目の目標とカリキュラムの整合性を検証することが望まれる。

導入教育、履修指導、年間履修登録単位数の上限設定（48 単位）は相応である。授業評価は全科目で実施されているわけではないが、フィードバックは一定程度なされている。これをもとに 2009（平成 21）年秋学期から実施されている「授業改善のための意見交換会」は注目すべき取り組みである。

以上のことから、教育課程の編成・実施に関して目標との整合を欠くと見受けられる点もあるが、目標はおおむね達成されていると判断される。

### [2] 今後の改善経過について報告を求める事項

なし

以 上